

一人一人が備えてこ!

防災力UP! 鳥羽

総務課防災危機管理室



25

1118

vol.14

そのとき、  
あなたは どうする?  
緊急地震速報利用の心得

緊急地震速報は、地震により予想される震度が5弱以上であるときに発表され、震度4以上が予想される地域に対して到達時刻や震度を可能な限り素早く発表し、もうすぐ強く揺れることを知らせてくれるものです。テレビやラジオ、防災行政無線、携帯電話端末などで報知音が鳴ります。

緊急地震速報を見聞きしてから強い揺れが来るまでの時間は数秒から数十秒しかありません。この短い間に、落ちてくるものや倒れてくるものを受け、慌てずに身を守るなど適切な行動をとるためには、日ごろから慣れておくことが重要です。

市では、防災行政無線などから緊急地震速報を流す訓練を定期的に行いますので、機を逃さず活用してください。

地震の揺れを感じたら…  
緊急地震速報を見聞きしたら…

周りの人にも声をかけながら

慌てず、まず身の安全の確保を!!

家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する。
- あわてて外へ飛び出さない。
- むりに火を消そうとしない。



自動車運転中は

- あわててスピードをおとさない。
- ハザードランプを点灯しまわりの車に注意をうながす。
- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす。



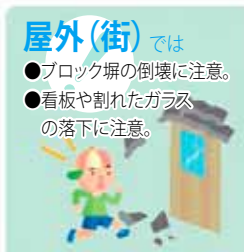
人が大勢いる施設では

- 係員の指示にしたがう。
- あわてて出口に走りださない。



屋外(街)では

- ブロック塀の倒壊に注意。
- 看板や割れたガラスの落下に注意。



鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりとつかまる。



エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる。



周囲の状況により具体的な行動は異なります。日ごろからいざというときの行動を考えておきましょう。

注意

緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は、長くても十数秒から数十秒と極めて短く、震源に近いところでは速報が間に合いません。また、予測された震度に誤差を伴うなどの限界もあります。

イコール  
パートナー  
シップ

Vol.115



マタハラ

市民課人権・生活係  
☎ 25 1126

「妊娠しました。出産予定は○月○日です」

もし職場の仲間からこんな風に報告を受けたら、あなたはどのように返しますか?

ほとんどの場合は「おめでとう」「よかったね」と祝福の言葉を掛けると思います。しかし、心のどこかでは「仕事は続けるのかな?」「一人分穴が空いて忙しくなるな…」そんな風に思ってしまう自分もいるのではないのでしょうか。

この思いがいきすぎでしまい、妊娠・出産をした働く女性が、心ない嫌がらせを受けたり、それを機に解雇・契約打ち切り・自主退職へ誘導されたりと、職場で精神的・肉体的に不利益な扱いを受けることが問題となっています。これを「マタハラ(マタニティ・ハラスメント)」といいます。

現在では、セクハラ・パワハラと並ぶ3大ハラスメントの

一つと言われています。

ある調査では、妊娠経験者の実に4人に1人(26・3%)が、被害に遭ったことがある、との結果が出ており、働きながら出産、子育てをする女性が厳しい現実には置かれていることが浮き彫りになりました。同調査では、職場でマタハラが起こる原因として次の3つが上位に挙げられました。

- (1) 男性社員の妊娠・出産への理解・協力不足(51・3%)
- (2) 会社の支援制度設計や運用の徹底不足(27・2%)
- (3) 女性社員の妊娠・出産への理解不足(22・0%)

一人ひとりが妊娠・出産への理解を深めることはもちろん、会社・組織としての妊娠・出産への理解や制度の整備が必要な時代なのではないでしょうか。

